
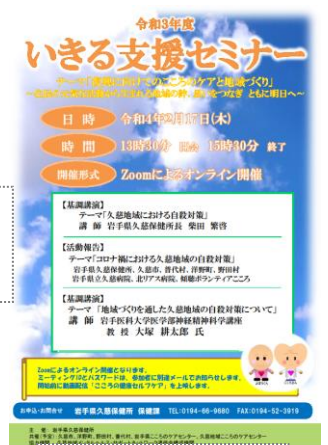



# 活動成果報告書

令和3年度（第25回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ コロナ禍における自殺対策の推進 ～新型コロナウイルス感染症対応業務と併用して「包括的な自殺対策プログラム（久慈モデル）」を推進するには～	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 岩手県久慈保健所 保健課 代表者：岩淵 明美	  <p>メンタルヘルス・サポートネットワーク連絡会。(毎回約60名の参加) 今年度はオンライン開催しました。</p>
勤務先：岩手県久慈保健所 所 属：保健課 所在地：〒028-8042 岩手県久慈市八日町1-1 TEL：0194-66-9680 FAX：0194-52-3919	 <p>活動報告集作成に変更</p>

## ◇活動方針

- 1 新型コロナウイルス感染症対応業務で、保健所の通常業務が中止・縮小中でも自殺対策事業を継続し、感染対策を徹底することにより相談者や傾聴ボランティア等関係団体から新型コロナウイルス感染者を一人も出さず、感染を拡大させない。
- 2 久慈地域の傾聴ボランティア、NPO 法人等地域で活動する方々が安心・安全に事業参加できるよう備えるため、感染対策の知識・技術を習得するとともに、課題を共有することにより、地域において多様なボランティア活動を展開し、地域のメンタルヘルスが一層向上する。

## ◇活動内容とその成果

地域における自殺対策では、一次予防から三次予防まで包括的に実践することが必要である。当管内では、久慈地域自殺対策アクションプラン（平成31年3月）を策定し事業を実施してきた。

1. 基本的な感染対策を講じたうえで相談者や傾聴ボランティア等への支援活動、相談窓口での対応・感染対策指導
  - ・ 合庁正面玄関：マスク着用の徹底、体温測定、手指消毒の実施、普及啓発ポスターの掲示等
  - ・ 事務室・相談室入室時の手指消毒の徹底、体温測定、マスク着用徹底  
(※開催事業によっては COVID - 19 の接触状況に関する問診票実施)
  - ・ 面接時におけるアクリル板の設置、座席配置の工夫（対角線上、人数制限、間隔を開ける、面接時間の短縮、相談者へ感染予防対策について説明、御協力を得る。)
  - ・ 室内換気（常時）・サーキュレーターの設定、使用した相談室・物品の次亜塩素酸ナトリウム希釈液による環境清拭の徹底、職員の健康管理

# 活動成果報告書

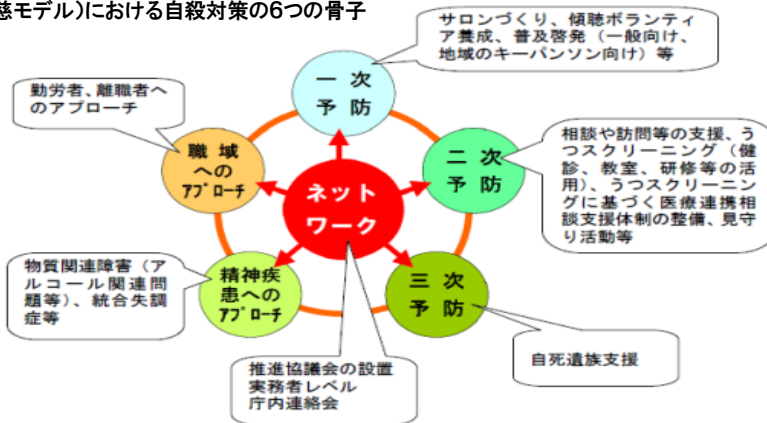
2. Zoom オンラインを利用し、ゲートキーパーや傾聴ボランティア等に対する感染対策研修会の開催及び実技指導を行い、ボランティア団体等が感染対策に注意しながら、地域活動を行うことが出来るよう支援を行っている。（研修会内容：岩手医科大学と共催）

また、ボランティア定例会などでは、代表者等参加人数を制限し、事業実施についての情報共有を随時行っている。

3. 久慈地域自殺対策アクションプラン（H31. 3月策定）における「包括的な自殺対策プログラム（久慈モデル）」による自殺対策は、6つの骨子から構成され、感染対策を講じながら事業を実施した。

事業推進にあたっては、長年、岩手医科大学医学部神経精神科学講座 大塚教授の御支援を頂き進めている。

【包括的な自殺対策プログラム(久慈モデル)における自殺対策の6つの骨子



## (1) ネットワークの構築

3つのネットワークにより震災復興に向けたこころのケアやこころの健康づくりの推進に力を入れている。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、イ及びウはオンライン開催とし、岩手医科大学医学部神経精神科学講座と共同ホストにより開催した。

活動内容：ア. 久慈地域自殺対策推進ネットワーク会議の開催

イ. 久慈地域メンタルヘルス・サポートネットワーク連絡会の開催

様々なテーマを設け、研修・活動報告・事例検討を行っている。

また、テーマや進行役は、9団体から構成する「世話人会」で決定している。

### <開催状況>

回数	テーマ	参加者数	回数	テーマ	参加者数
1回	久慈地域の自殺の現状と自殺対策の取組	67	6回	児童生徒のメンタルヘルス	63
2回	支援者のセルフケア	63	7回	生活困窮者支援	60
3回	コロナ禍におけるこころのケア	53	8回	自殺対策におけるハイリスク者ケア	(書面)
4回	被災地におけるメンタルヘルス	61	9回	(いきる支援セミナー) ※オンライン開催中止	活動報告集作成
5回	アルコール関連問題と飲酒問題を抱える方への対応	58			

ウ. 市町村等こころのケア担当者連絡会

自殺者・未遂者の現状や支援状況、各機関における自殺予防対策事業の進捗状況を共有し、こころのケアに係る推進方策等を検討している。

## 活動成果報告書

上記、メンタルヘルス・サポートネットワーク連絡会と同日開催している。

活動回数：ア. 年1回（書面開催） イ. 年8回 ウ. 年8回

### (2) 一次予防（住民全体へのアプローチ）

活動内容：傾聴ボランティア育成、普及啓発（一般向け、地域のキーパーソン向け）等

活動回数：いきる支援セミナー（1回）ゲートキーパー養成研修（通年）、出前講座（通年）

### ア. 二次予防（ハイリスク者へのアプローチ）

活動内容：相談や訪問等の支援、市町村うつスクリーニング支援（健診、教室、研修等の活用）  
自殺防止看板の設置継続（管内に1か所設置）

活動回数：自殺支援者支援（通年）、産後うつ対策（母子保健連絡会）・ひきこもり当事者及び家族会支援（通年）

### イ. 三次予防（自死遺族支援）

活動内容：自死遺族交流会の開催や自死遺族への個別支援

活動回数：自死遺族交流会（年2回）、自死遺族向けのパンフレット配布・相談対応（通年）

### ウ. 精神疾患へのアプローチ

活動内容：アルコール関連問題、統合失調症等個別支援を継続

活動回数：緊急対応（通年）、酒害相談（年12回）、こころの健康相談（年12回）等

### エ. 職域へのアプローチ

活動内容：事業者訪問や出前講座等による普及啓発や相談窓口の周知

活動回数：出前講座（通年）、事業者訪問（通年）

新型コロナウイルス感染症対策における保健所の業務は、多忙を極め、当所では主に保健師5名でその業務調整を行っている。

コロナ禍においても自殺対策は重要であり、継続した取り組みが必要であるが、マンパワーに限りがあり、困難を極める。そのため、振興局内からの業務応援や、自殺対策では、さらに岩手医科大学医学部神経精神科学講座と提携を密にして指導を賜っている。

個別支援では、ボランティア団体の傾聴活動においても、相談者の細かな表情や訴えに耳を傾けることが重要であり、電話対応やオンライン面接などに変えることは出来ない。対面の面接相談は特に感染リスクが高くなるが、今回、研修会の開催や個別指導を通して感染対策を徹底することによりコロナ禍においても、相談者、ゲートキーパーや傾聴ボランティアから新型コロナウイルス感染者の発生なく久慈モデルを継続できている。

### ◇今後の計画

東日本大震災津波から10年が経過した。岩手県沿岸地域は復興途中であり、被災者が抱える問題は複雑・多様化している。被災者や支援者も含め、こころのケアも重要な課題として長期的な取組が必要であり、自殺対策と連携・連動しながら取組を進めている。

「久慈地域メンタルヘルス・サポートネットワーク連絡会」（※1）を中心に、岩手医科大学医学部神経精神科学講座、関係機関・団体の御協力を得ながら継続実施することが出来ており、次年度も同様に開催をしていくこととしている。

医療資源の少ない当管内において、長年、培ってきた連携体制の強さ、人と人とのつながりの大切さを感じている。これからも、感染対策の取組を強化し、ネットワークを中心に、震災復興も含め、こころのケア、自殺対策に取り組んでいきたい。

（※1）平成16年度から実務者が定期的に集まり、情報交換や研修等を行っているもの。

医療・警察・消防・教育・保健・福祉・高齢介護等関係団体